

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型の意義を確認し、事業所、職員全体が実践していくためのわかりやすい理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を申し送り時に述べ、職員全体が実現に取り組んでいる。又、職員独自の基本方針を作り、毎朝唱和している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の方々には合同行事や地域行事への参加などで、家族の方々にはみのり通信や面談、来訪時の報告などを通して理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内催し事などに積極的に参加し、散歩や買い物で軽く会話をするなどで、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内催し事や日帰り旅行、清掃などに参加している。年1回行われるソフトボール大会では、町内の他の区とも交流が出来るので積極的に参加している。又町内会と合同で行う夏の「昼食会」は毎年80名規模で恒例行事となっている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の方々のお年よりの介護や、介助についての悩みの相談をお受けしていると共に、運営推進会議や町内役員の方々に参加される町内行事などで話題を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情を自由に表せる環境作りや、訪室時の会話を心がけている。意見等があった場合は、職員全体で解決に向け話し合い、運営に反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月15日に預り金による金銭出納帳のコピー、領収書原本を家族に郵送している。暮らしぶりや健康状態は日々の電話や来訪時に報告をしている。急変の場合は即日連絡している。又、毎月発行の「みのり通信」以外にも、「みのり通信個別版」を作成して送付している。職員の異動報告は急にならないよう配慮しながらその都度対応している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内にご意見箱を設置している他、家族の来訪時に問いかけたり、運営推進会議に参加している家族の意見等を会議の議題に載せ、運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	社内ホームページで自由に意見交換が出来る体制があり、運営者に直接、意見や質問が出来るようになっている。又、必要に応じ、管理者が職員の面談を行って意見等を聞いている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者や家族に状況の変化が生じた際の要望には、柔軟な対応が出来るよう話し合いは常に行い勤務調整も行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者や職員の離職は無い。職員の異動は最小限に抑えてはいるが、やむを得ず異動がある場合は、入居者への影響がないよう職員間で協力し合い、混乱を防ぐための最善の配慮を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部での研修の参加を支援していると共に、会社内部にも研修委員会を設置し、月一回の研修を行っており、働きながらスキルアップができるように支援している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は外部での研修等に積極的に参加させており、同業者との情報交流によって得たものをサービス向上の糧として取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレス緩和に向けた研修を外部から講師を迎えて行ったり、全職員を対象とした面談を定期的、希望に応じて行ない、ストレスの軽減に取り組んでいる。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格手当や報酬などが充実しており、賞与は査定制度を設け個々の努力に応えているためスキルアップの励みにもなっている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人と会話する時間を多くする事で、不安・悩み等を聞き信頼関係を築けるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からのお話を十分に傾聴し、信頼関係を築けるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームでの支援のみにこだわらず、他のサービスの利用も視野に入れて本人・家族の希望を見極め、対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族の見学を勧め、来られない場合は訪問をして入居前の話し合いをし、事業所としてできる事できない事も話し合った上で、納得してサービスを利用して頂けるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	会話・趣味を通じて意思の疎通をこころがけ、本人の立場を尊重し支え合う関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と情報を共有し、相談しながら本人を支えていくように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人とご家族の関係を見守り、時には話し合いの時間を設けながらより良い関係が築いていけるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	会話の中で利用者の生きてきた時代や知識を学ぶ事が多く、本人が大切にしてきた馴染みの環境を崩さないよう支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶やおやつ時間などに、入居者同士の会話がスムーズに運ぶよう取り持ったり、同じ作業を分担して行う事で支え合える関係が出来るよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了後も相談していただけるようご家族に声かけを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向に出来るだけ沿いながら、介護計画に反映している。会議で話し合い検討し、入居者の意向をくみ取るように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式などの情報シートや家族との面談などでおおよその生活歴などを把握し、入居後の会話や仕草から、暮らし方を聞いたりし、記録に残している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守りを行い、心身の状態の変化や体調の不良を報告や記録する事で、スタッフ全員が把握出来る体制になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時から、家族からの情報や意向、本人の希望を素にアセスメントを実施し、本人が寄り自分らしく生活出来るように介護計画をスタッフ全員で話し合い、作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3ヶ月ごとに見直しを行っているが、刻々と変化する状況や目標の達成度に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に日々の生活を記載し、食事量や排泄、身体状況の変化などの情報をスタッフ全員が常に把握し、家族とも情報の共有を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族や本人の状況により、通院や送迎などに対応している。階下のデイサービスと共に行事を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティアの方が定期的に来訪している。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。又札幌市のおむつ制度を利用している入居者もいる。	本人の意向や必要性に応じて訪問理美容や、訪問歯科のサービスを利用している。又札幌市のオムツ制度を利用している入居者もいる。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加してもらっているため、情報交換や協力体制が整っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回、提携クリニックの医師の訪問診療を受け、緊急時にはすぐに対応できる体制になっている。但し本人や家族が希望する医院への受診は職員が同行するなどの支援を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	本人や家族と相談し、情報を共有しながら、認知症専門医への受診や治療をうけられるように支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者を良く知る訪問看護師が、週に1回訪問している。職員と看護師が連携を計り、健康管理や状態の変化に対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	職員がお見舞いに行き状況を把握し、出来るだけ早く退院できるように、医師や家族と相談し戻ってからのリハビリ等の支援が出来るように準備を行うようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた対応を、家族、医師、看護師を交え話し合い、統一した方針で対処するようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期の入居者の対応は、本人や家族の意向をふまえて、医師や看護師と連携をとりながら、安心して過ごせるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	これまでの暮らしやケアが継続されるように、プライバシーに配慮しつつ本人や家族と十分な話し合いや情報交換を行い、住み替え後の生活が尊重されるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの誇りや、プライバシーを尊重し個々に対応している。面会簿は個別にし、ケース記録はドアがついて見えない所に保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。	日頃からコミュニケーションを良くとり、訴えがあった時には傾聴し、表情を観察し、入居者本人が決められるような、声がけ、配慮をしている。入居者が出来るだけ納得し安心して暮らせるように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	買い物や散歩など、個々の状態や思いに配慮し、出来るだけ希望に沿うように柔軟に対応している。また、好きなこと、得意なことを発揮できるような場面づくりに勤めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容にて、入居者本人相談しながらおしゃれが出来るように支援している。外出時や希望時には、お化粧品やマニキュアを楽しんでもらえるように支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しめるように、入居者の意見や食べた後の感想などを参考に献立を立てている。一緒に食事の準備や後片付けしながら、料理についてのアドバイスを受けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>煙草は防災上全館禁止の為、ご協力頂いている。お酒は室内行事や外出行事の際に体調なども考えながら楽しんでもらっている。体調やカロリーのことを考慮した上でおやつは自分の物を用意し、好きな時に居室で食べる方もいる。</p>		<p>ホームでは毎日15時におやつを提供しており、入居者の希望を取り入れおはぎや、おしろこ、蒸しパン等を手作りしている。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、入居者の排泄間隔を把握して必要時にトイレ誘導している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>デイサービスの広い浴室を借りて仲の良い入居者同士で入浴したり、体調に応じて入浴日を変更したりと臨機応変に対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>日中はなるべく活動的に過ごして頂けるよう声がけし、夜間眠れない場合は居室やリビングでお話を傾聴し、落ち着いて休めるよう努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>ベランダの花の水遣りや、繕い物、掃除、食事の仕度、食器洗い、洗濯物畳みなどの役割支援、またはビデオ鑑賞、お茶たて、習字やおやつ作り、外出行事など気分転換になるよう工夫している。</p>		<p>ラジオ体操以外に、身体を動かす楽しみを取り入れたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金をある程度自己管理している方や、職員が買い物に同行し支払いするまでの過程を見守りする方など、入居者の状態に応じて支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や入居者の体調・希望に応じて近隣の散歩や外食・買い物等行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	遠方の外出については事前に計画を立て、体調管理に気をつけ、場合によっては家族の協力を依頼し、職員の勤務を調整して行っている。		利用者の思いや願いを叶えられるよう、支援して行きたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	相手の時間帯も配慮しながら電話の取り次ぎ、手紙や葉書のポスト投函等、入居者の希望時に対応している。		電話の場合は、人目を気にせず話ができるよう、子機を使い居室で話して頂いている。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族・馴染みの人達がいいつでも気軽に訪問できるよう、各自が笑顔や明るい挨拶を心掛けている		来訪時には、「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と挨拶し、お帰り時には「ありがとうございました」「お気をつけてお帰り下さい」と笑顔で明るく声がけするよう心掛けている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が中心となって研修会を行ったり、身体拘束をしない為にはどうすればいいのか、事業所内だけではなく会社全体で話し合っている。		毎月のミーティング等で各個人のケア方法を振り返り、身体拘束がなかったか確認している。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者が玄関に近づいた際は、声をかけ様子をうかがい、場合によっては一緒について行く等、安全面に配慮した見守りを行っている。		居室の鍵に関しては不安からかける入居者もいるが、職員の声かけにより話を傾聴、共感し不安を取り除き、鍵を開けて頂くよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、利用者の動向を熟知し、常に安全を確保するよう努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の介護度に応じて、危ないと思われる鉋や爪きりなどの刃物は事務所で預かり、必要の際お渡しし使用してもらっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	社内・社外研修で、救命・防災などの知識を学び個々の事故防止に取り組んでいる。		薬に関しては、誤薬・飲み忘れがないようミーティングで徹底的に話し合い、確認強化を実施し服薬事故が起きないように真剣に取り組んでいる。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	社内に研修委員会があり、今年は札幌市消防局の方が講師の普通救命講習を全職員が受講している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	町内会役員の方にも参加して頂き、昼夜両面で避難訓練を行っている。運営推進会議でも地域との協力体制を話し合っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族との連絡を密にし、リスクに対しての説明を行い、一人一人の暮らし方を大切にしながら、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人一人の表情や体調に日々留意し、体調変化・異変がある時は主治医や訪問看護師と連携し対応に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が処方されるごとに必ず説明書を読み、内容確認をしている。薬の変更があった場合は、専用ノートに記載し職員間で情報共有している。服薬後、症状に異常がある時はドクターに連絡し指示を受けている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を積極的に促し体力低下を防ぐため、毎日体操を行っている。また、牛乳や食物繊維の多い食品を提供するなど、自然排泄を促す工夫を一人一人行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に、歯磨きの声かけ・誘導を行っている。就寝前は、洗浄した義歯を専用ケースに保存するよう支援している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人のケース記録に水分・食事量を記録し、状態の把握に努めている。メニューは社内の管理栄養士に見てもらい指示を受けている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	社内に感染症予防・防止委員会があり、感染予防マニュアルを作成し全職員が共有している。入居者・職員・来訪者に対する入り口での手洗いとうがいの励行や、全入居者・全職員のインフルエンザ予防接種など、全社的に感染予防に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾等は毎日消毒し、盛り付けもグローブを使っている。冷蔵庫・冷凍庫の食材の管理や賞味期限のチェックはもちろん、庫内も週3回掃除し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のウエルカムボードは入居者と一緒に作成し季節ごとに替えている。毎月のみり通信は玄関や廊下に貼り、普段の様子がわかるよう努めている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールには植物や花を飾り、テレビもつけばなしにせず、音楽に替えるなど入居者の様子を見ながらメリハリをつけている。壁や窓には季節を感じられるような飾りつけをし、運動機器も設置して楽しみながら体力維持ができる環境作りをしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳にちゃぶ台と座布団を置き、冬には季節を感じられるようこたつ布団をかけている、ラジカセで好きな音楽を聴きながら気の合った入居者同士で談話や昼寝をしたり、手芸等も楽しむ事が出来るような場所の工夫をしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた筆筒や椅子などのなじみのある物を配置し、落ち着いて生活が出来るような雰囲気になっている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、昼・夜二回温度・湿度を記録し、その都度調節している。冬期間は加湿器を使用し、乾燥しすぎないよう気をつけている。暖かい季節にはこまめにリビング窓を開け空気の入替えをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室に手すりを設置。入浴時には湯船や洗い場に滑り止めマットを使用している。ホール内は歩行がしやすいよう通りやすいスペースを確保している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには「お手洗い」の表示があり、使用が多いトイレには有無が分かるような手作りのボードを、浴室には「湯」の暖簾をかけ、入浴時は一目でわかるよう入浴中のボードをして工夫している。居室入り口脇には、自分の居室と認識できるように、目印となるよう好きなぬいぐるみや置き物を入れるボックスが設置されている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	春から夏にかけて花やトマト・イチゴや野菜をベランダのプランターに植え、入居者に水やりや手入れ、収穫等してもらい、暖かい季節にはベランダに置いてあるベンチで談話やお茶のみをしたり、車椅子の方を含む入居者全員でランチを楽しむことも行っている。		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく ○ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者には自分の希望や意見等が言いやすい環境を確保すること、また、ご家族の方々にも来訪しやすい雰囲気心がけ、ある程度は個々のスタッフに自由で自分らしい介護を行ってもらっている。入居者も喜怒哀楽を適度に出しながら、日中は居室にこもらず、自らの意思でリビングで過ごす入居者も多い。